direct x スリーゼロ
社用車・営業車　運転業務の危機管理とDX

ひとの願いの、半歩先。

SHARP

シャープ株式会社
スマートビジネスソリューション事業本部
SaaS事業統轄部 SaaSビジネス部
部長　立崎 孝生

自己紹介ページ

ひとの願いの、半歩先。
SHARP

多くの企業様の運転業務の法令遵守体制整備、DX化などに寄与してまいります



たちざき　たかお
立崎 孝生

企業名　シャープ株式会社

部署　スマートビジネスソリューション事業本部
SaaS事業統轄部　SaaSビジネス部　部長

経歴/業務内容

30年にわたるIT業界での経験や外資の営業メソッド・戦略構築経験を活かし、営業組織立上げ、SaaSビジネスの立上げなど10社以上のベンチャー・スタートアップ支援にも個人事業主として従事。

2022年にシャープGr. へ AI、IoT開発支援サービスの営業責任者として入社。現在はシャープのSaaSビジネスのマーケ、セールス、カスタマーサクセス等レベニュー部門全体の統括責任者を担う。

本日のご説明

01 **社用車・営業車利用に伴う企業の取組・義務**

「やるべき4つのこと」と、罰則・実態・直近の事例

02 **スリーゼロができること**

よくある課題への答え・主な機能・導入事例・2分でできる簡易チェック

Copyright © SHARP CORPORATION

『スリーゼロ』とは

ひとの願いの、半歩先。
SHARP

130機種以上の検知器とスマホ・クラウドをつなぎ、**アルコールチェック業務をまとめてDXする白ナンバー事業者向けサービス**です

1 どこでも検査

・スマホと今お使いの検知器（※）で、どこでもその場で
　検査・報告 （※130機種以上に対応・買い替え不要）
・直行直帰・深夜早朝も、結果はリアルタイムにクラウドへ

2 なりすまし防止

・検査中の自撮り×AI顔認証で本人確認。写真の使い回しも防止
・全社の実施状況を一覧化、未実施もひと目で把握

3 まとめて管理

・チェック記録から運転日誌・月報まで、クラウドで一元管理
・監査や事故対応の際も、すぐに記録を提出できる状態に

検査から記録・日誌・監査対応まで一元管理

報告・確認・承認まで、スマホで完結！

アルコールチェック管理サービス
0.00 スリーゼロ



Copyright © SHARP CORPORATION

01

社用車・営業車利用に伴う企業の取組と義務

「やるべき4つのこと」と実態・直近の事例

アルコールチェックの義務は、段階的に強化・具体化されています

ひとの願いの、半歩先。
SHARP

2022年の義務化以降、求められる水準は**「実施すること」から「正しく運用できること」へ**広がっています

2022年4月｜義務化スタート

安全運転管理者による運転前後の目視等での酒気帯び確認と、記録（8項目）の1年保存が義務化されました
（道路交通法施行規則の改正）

2023年12月｜検知器義務化

アルコール検知器を用いた確認と検知器を常時有効に保持することが義務化されました

2024年12月｜運用方法の明確化

警察庁通達により、直行直帰などで対面確認が難しい場合の点呼はカメラ・モニターや電話等の直接対話による「対面に準ずる適宜の方法」と明示。点呼業務の委託（点呼代行）も条件付きで認められました

出典：警察庁 令和6年12月27日通達（丁交企発第352号・丁交指発第226号）ほか

ルールは年々具体的に。方法が明確になった今は、チェック体制を整えやすいタイミングです

Copyright © SHARP CORPORATION

車両利用に伴う企業の取組・義務

ひとの願いの、半歩先。
SHARP

業務での車両利用に伴う企業の取組は大きく4つに分かれますが、全ての土台になるのは義務への対応です

義務（罰則・処分の定めあり ※）

1 管理者の選任

・各事業所で管理者を選任・届出
・異動・退任時は変更の届出
（15日以内）
・年1回の法定講習を受講

2 違反運転の防止

・運転者の免許有効期限・
違反状況の把握
・免停・無免許の従業員を
運転業務から外す

3 日々のチェック・点呼＋形骸化しない仕組み

・アルコールチェックと点呼
・運転日誌
・検知器の有効保持
・未実施者への確認・注意喚起
・監査・事故の際の記録提出

任意（罰則なし）

4 安全意識の向上

・ドラレコ等での安全運転の啓発
・安全運転研修・教育
・事故・車両維持費の削減の取組

※ 1・2には罰則の定めがあります（道路交通法）。3は平時の罰則規定はないものの、事故の際には行政処分等に至る可能性があります。
※ 記載は概要です。義務の詳細は警察庁の公表資料をご確認ください。

Copyright © SHARP CORPORATION

③「日々のチェック・点呼」で求められる義務の詳細

ひとの願いの、半歩先。
SHARP

前ページ③の義務は、確認の方法・記録・検知器の管理まで具体的に定められています

義務（罰則・処分の定めあり ※）

3

日々のチェック・点呼
＋形骸化しない仕組み

- アルコールチェックと点呼※
  （対面 or 対面に準ずる方法）
- 記録（8項目）と1年間の保存
- 運転日誌の記録
- 検知器を常に有効な状態に保つ
- 未実施者への確認・注意喚起
- 監査・事故の際に記録を提出

アルコールチェックと点呼（対面 or 対面に準ずる方法）

運転の前後に、安全運転管理者が目視等（顔色・呼気の臭い・応答の声の調子）と、アルコール検知器を用いて酒気帯びの有無を確認します。直行直帰などで対面が難しい場合は「対面に準ずる適宜の方法※」で実施

※①カメラ・モニター等で運転者の状態を確認しながら、検知器の測定結果を確認
②携帯電話・業務無線等の直接対話で状態を確認し、測定結果を報告させる



記録（8項目）と1年間の保存

(1) 確認者名　(2) 運転者　(3) 業務に係る自動車のナンバー等　(4) 確認の日時　(5) 確認の方法（検知器の使用の有無／対面でない場合は具体的な方法）(6) 酒気帯びの有無　(7) 指示事項　(8) その他必要な事項

運転日誌の記録

(1) 運転者の氏名　(2) 運転開始、終了日時　(3) 運転した距離　(4) 運転情報を把握するのに必要な情報　を日誌に記載

検知器を常に有効な状態に保つ

正常に作動し、故障がない検知器を保持することが必要です：(1) 取扱説明書どおりに使用可能な期限・回数を守る
(2) 検知器の保守管理を行う　(3) 定期的に故障の有無について確認し、故障がないものを使用する

また、これらの具体的な義務を全運転者が毎日続けられるような、形骸化しない仕組み作りも重要です

※記載は概要です。義務の詳細は警察庁の公表資料をご確認ください（道路交通法施行規則、警察庁通達・Q&Aほか）。
アルコールチェック管理サービス『スリーゼロ』

Copyright © SHARP CORPORATION

罰則と責任 ― 問われるのは会社だけではありません

義務違反の罰則は、会社に加えて運転者や管理者「個人」に及ぶ場合があります

会社に問われるもの

・**管理者の選任義務違反：50万円以下の罰金**
（改善命令を経ずに適用され得る）
・**酒気帯び運転等の下命・容認：最大5年以下の懲役または100万円以下の罰金**
・平時の罰則がない義務でも、事故時には行政処分に至る可能性

個人に問われるもの

・飲酒や無免許運転は、当然だが**運転者本人の刑事責任**
・加えて、違反運転を下命・容認したとみなされた場合
安全運転管理者も処罰の対象になり得る
・安全運転管理者が義務を怠った場合、個人として責任を問われる可能性（例：酒酔い運転の下命・容認の場合、5年以下の懲役 または 100万円以下の罰金※）

付随して、事業運営にまで影響するリスクも

・行政処分による車両の使用停止 ― 業務そのものが止まる
・取引先の評価・取引継続への影響 ― 管理体制の不備が信用に直結
・事故の際は企業名で報道・調査の対象に

※参考：道路交通法 第百十七条の二
2　次の各号のいずれかに該当する場合には、**当該違反行為をした者は、五年以下の拘禁刑又は百万円以下の罰金**に処する
一　第七十五条（自動車の使用者の義務等）第一項第三号の規定に違反して、**酒に酔つた状態で自動車を運転することを命じ、又は容認**したとき

※罰則の適用条件は事案により異なります。記載は概要であり、詳細は警察庁の公表資料等をご確認ください。

Copyright © SHARP CORPORATION

実態：全てに漏れなく対応している企業は多くありません

日々の検査は行っていても、その前提となる**管理や「続けさせる仕組み」までは手が回っていない**ケースが目立ちます

「目視等による確認」は

約3割

の企業で実施が不十分

義務化から時間が経った今も、
基本の確認が徹底されていません。

出典：当社「アルコールチェック義務化の実態把握調査」
（2025年7月・n=1,146）

商談でよく伺う「4つのこと」の抜け

1. **拠点ごとの選任や、異動時の変更届が漏れている**
2. **免許確認が1〜数年に1回の手作業で、期限切れに気づけない**
3. **写真の使い回し・まとめ書きの余地が残っている**
4. **未実施が月次のチェックまで発覚せず、その時点では取り戻せない**

※お客様との商談で特によく伺う状態を整理したものです。

特に直行直帰（遠隔点呼）が多い企業では、こうした抜けが生まれやすくなります

Copyright © SHARP CORPORATION

【事例】大手郵便事業者の行政処分は、拠点任せの運用も大きな要因の一つ

ひとの願いの、半歩先。
SHARP

2025年の大手郵便事業者の行政処分。個別の違反ではなく、全社的な不備率の高さが組織としての管理体制の問題と判断されました。その背景として、アルコールチェックや点呼の運用を拠点任せにしていたことも大きな要因の一つと考えられます

大手郵便事業者における
点呼などの不備率

75%

異常に高い不備率が、
組織全体の管理の不備と判断

拠点任せの運用によって発生するリスク

・拠点ごとに運用の質がばらつく
同じルールでも、実際のやり方は拠点の判断に委ねられる

・本社からは集計結果しか見えない
「実施済み」の記録が、実態を伴っているかまでは分からない

・不備が起きても、是正が遅れる
気づくきっかけが現場にしかなく、本社の把握が後手に回る

大手郵便事業者の行政処分においても、
「ルールはあったが、管理実態が甘かった」
ことが処分の決め手になったと考えられます

白ナンバー企業も同じ構造にあります

安全運転管理者は事業所ごとに選任します。一方で、選任と管理の責任は会社に及びます

拠点ごとの運用のままでは、本社は「できているつもり」を把握できません

Copyright © SHARP CORPORATION

事故は、いまも起きています

ひとの願いの、半歩先。
SHARP

飲酒・無免許をめぐる企業の事故は、直近も繰り返し報道されています

直近の報道事例

無免許状態の従業員が社用車を運転し、事故に至った事例が報道されています

・「免許を確認していたか」「会社として把握できる体制だったか」が焦点に

・事故そのものに加え、企業の管理体制が報道・調査の対象となる



https://www.ktv.jp/news/feature/260706-bokame/

繰り返されるインシデント・ヒヤリハット

飲酒
チェックの形骸化・なりすまし

無免許
免許確認の漏れ・期限切れの見逃し

点呼不備
記録のまとめ書き・未実施の放置

「うちに限ってそんなことは起きない」では、万一の際に企業・個人の責任が問われる懸念が残ります

Copyright © SHARP CORPORATION

先進企業では「社内規定」まで踏み込み、先手を打って対応を進めています

ひとの願いの、半歩先。
SHARP

対策が進んでいる企業に共通するのは、
ツールの導入で終わらせず、守れる仕組みへ規定・運用を変えている点です

チェックは「運転有無を問わず、全ての営業車所有者は毎日実施」

車両を割り当てられた社員は毎日チェックする規定へ変更。実施漏れや運転記録との突合の問題を、構造的に解消。

大手事務機商社

チェックを「業務中のみ」から「全ての運転シーン」へ

マイカー通勤を含め、車を使う社員全員を毎日のチェック対象にする規定へ変更。業務利用に限らない運用で、飲酒リスクを漏れなく管理。

大手建設関連業

検知器は推奨より短いサイクルで交換

メーカー推奨1.5年に対し、毎年4月に全社一斉交換へ統一。「期限切れの検知器」を仕組みで防止。

大手製造業

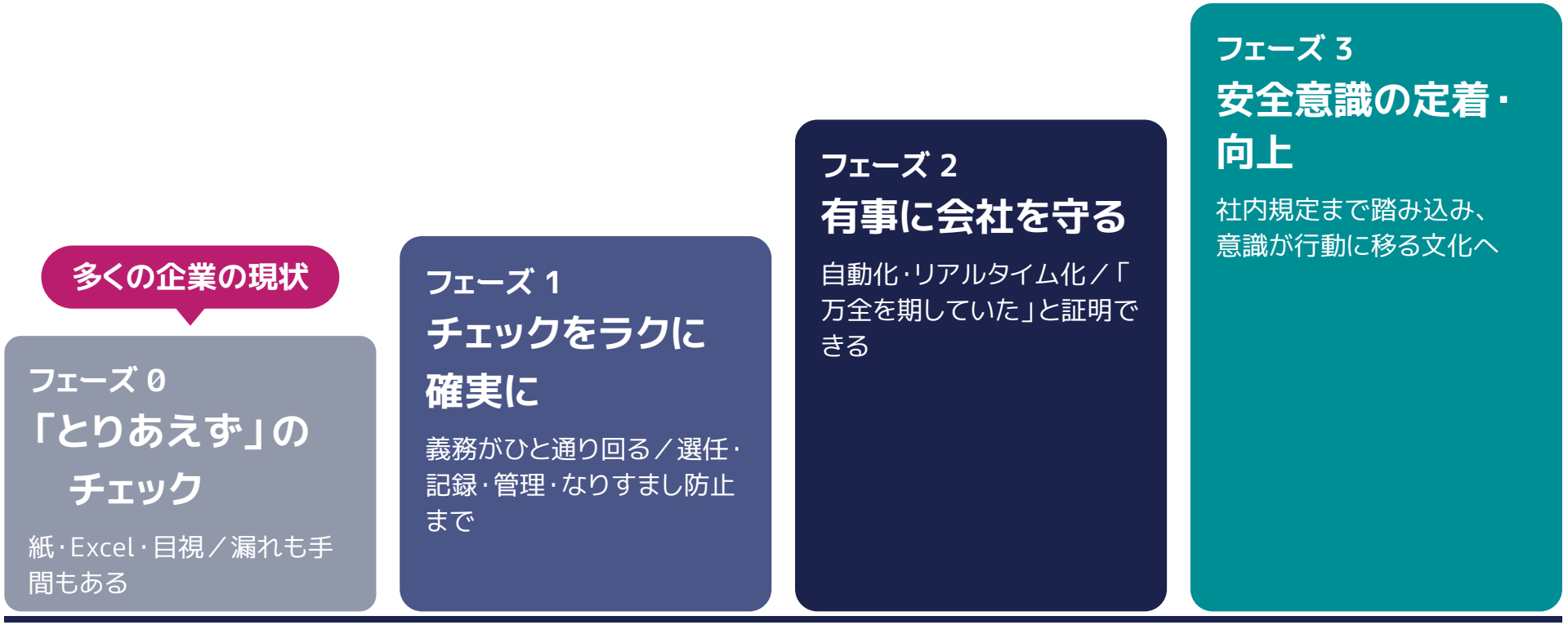
※当社によるヒアリングに基づく事例です（社名は非公開）。

共通点は、人の「意識」に頼らず「守る仕組み」に変えること ― これが先進的な設計思想です

Copyright © SHARP CORPORATION

アルコールチェックにおける体制構築ステップ

すべてを一度に整える必要はありません。まずはチェックの確実性を上げながら業務効率化を目指しましょう。
その後、もしもの時に会社を守るための体制構築や文化醸成を行うことを推奨します



まずはラクに・確実にチェックが回る体制を。できる限り手間を増やさず、最低限の義務を果たせる状態にすることから始めましょう

Copyright © SHARP CORPORATION

02

スリーゼロができること

課題に対する主な機能と導入事例

特長1．直行直帰・深夜早朝の点呼も、負担なく回る

スマホでの検査とリアルタイム確認に加え、外部サービスとの連携で「対応しきれない時間帯」をなくします

スマホでどこでも検査・報告

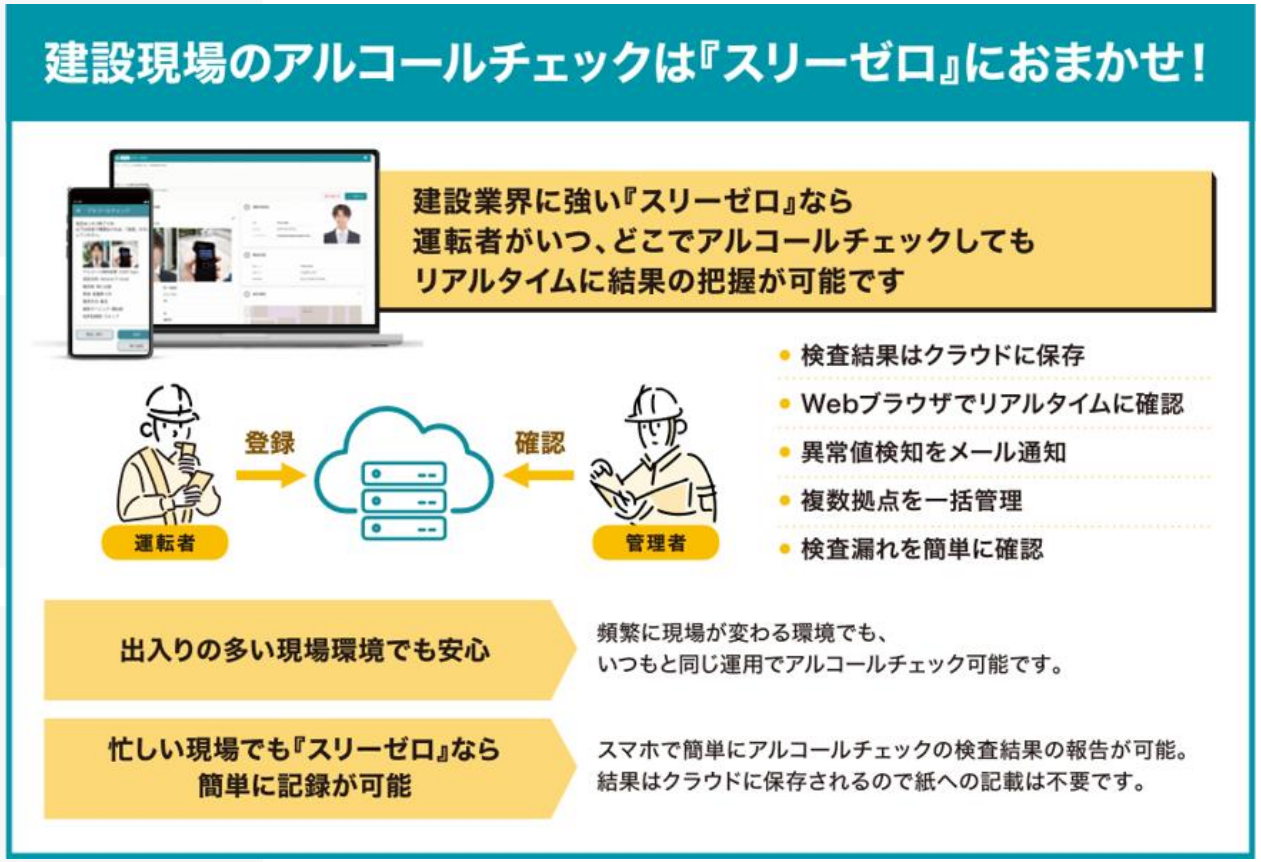
運転者はスマホと検知器だけで検査。結果と顔写真がリアルタイムにクラウドへ届き、管理者はその場で確認・承認できます。

点呼代行サービス連携

負担の大きい点呼業務を外部委託。運転者からの電話（インバウンド型）にも、センターからの電話（アウトバウンド型）にも対応し、深夜早朝もカバーします。

チャット・勤怠システム連携

directのチャットへ測定結果を自動通知し、承認もチャットで完結。
KING OF TIMEとの連携で、検査と同時に出退勤の打刻も可能です。



Copyright © SHARP CORPORATION

特長2．AI顔認証と見える化で、なりすまし・抜け漏れを防止

検査中の自撮り＋AI顔認証＋位置情報で本人確認。実施状況は一覧で把握でき、未実施を放置しません



AI顔認証でなりすまし防止



組織	運転者名	運転前のアルコール測定	運転後のアルコール測定	提出済みの運転日誌
営業部	山田太郎	実施済	実施済	1(承認済:0)
営業部	山田次郎	実施済	実施済	2(承認済:2)
営業部	鈴木一郎	未実施	未実施	0(承認済:0)
総務部	鈴木三郎	実施済	未実施	0(承認済:0)
総務部	田中花子	実施済	実施済	1(承認済:0)
総務部	田中桃子	実施済	実施済	0(承認済:0)

検査未実施の見える化

・事前登録した顔写真とAIが自動照合。位置情報・検知器写真のエビデンスも記録
・管理画面で当日・前日の実施状況と運転日誌の提出状況を一覧確認
・車両予約の時間になっても未実施の場合、メール・プッシュ通知でアラート（プレミアムプラン）

Copyright © SHARP CORPORATION

特長3．記録・日誌・月報を一元管理 ― 検知器はそのままでOK

紙やメールに散らばりがちな記録をクラウドに集約。**今お使いの検知器を活かせるので、移行の負担も最小限**です

クラウドで一元管理

検査結果は自動でクラウドに保存（2年分）。監査や事故対応の際も、すぐに記録を提出できます。

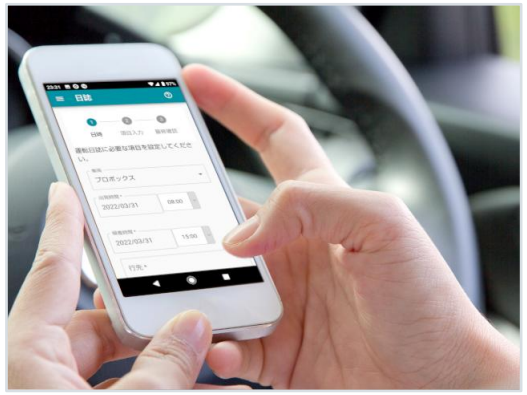
運転日誌・月報も自動化

スマホで日誌を作成し、運転者ごと・車両ごとの月報を自動集計してExcel形式で出力（レギュラープラン以上）。

検知器はそのまま

130機種以上に対応し、機種の混在利用もOK。買い替えコストをかけずに導入できます。





72社138機種に対応（2026年7月時点）

拠点ごとに検知器が違っても一元管理。オドメーターのカメラ読み取りで、走行距離の入力も自動化できます（プレミアムプラン）。

Copyright © SHARP CORPORATION

さらに ― 免許・検知器など「前提の義務」までサポート

ひとの願いの、半歩先。
SHARP

第1章の「企業の義務」の1・2にあたる管理業務も、手作業に頼らず仕組みでカバーできます。

免許証読み取り

免許証をスマホで読み取り、有効期限を一元管理。うっかり失効による違反運転のリスクを予防します。

レギュラープラン以上

検知器管理

検知器の残使用回数などを管理し、期限切れ検知器の使用を予防。「常時有効保持」の義務に対応します。

Bluetooth対応機種

日々のチェックだけでなく、その前提となる管理まで、一つのサービスでカバーできます

Copyright © SHARP CORPORATION

direct × スリーゼロ連携による管理業務のDX

ひとの願いの、半歩先。
SHARP

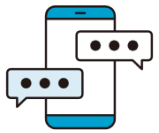
忙しい現場でも、スマホで手軽に法令遵守

ビジネスチャット「direct」上でアルコールチェックまで完結

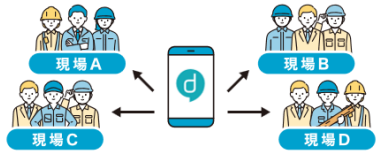
現場単位の柔軟な管理が可能



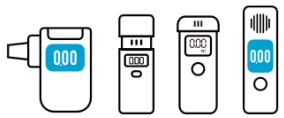
『スリーゼロ』で測定した検査結果を
チャットにお知らせ



点呼を実施後、
管理者はチャット上で承認可能



管理対象は現場ごとに変更が可能



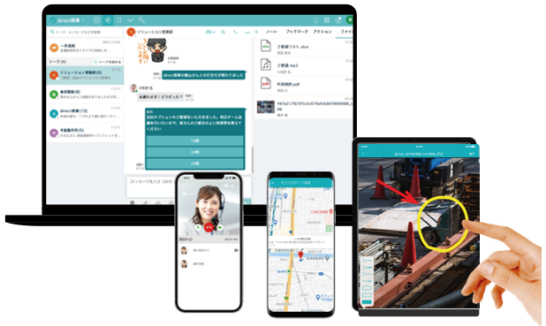
検知器は対応機種なら
なんでもOK



振り返りも管理画面で閲覧可能



紙、Excelでの管理不要



direct ダイレクト

現場に支持される安心・安全の国産ビジネスチャット

工程確認や現場状況を、メッセージ・写真で届ける

特長
1. 簡単操作で誰でも使える
2. チャットを超えた便利機能が充実
3. 安心・安全の国産セキュリティ

- directは株式会社 L is B が提供するサービスです。
- アルコールチェック管理サービス『 スリーゼロ 』と一緒にご導入いただくのがおすすめです。

実際にdirect連携を活用して便利だったこと（導入企業の声）

現場の負担は最小限！

スマホで完結するため、屋外でもサッと実施可能。操作も一本道なので誰でも簡単に正確な記録を残せます。

紙に記入していた頃より圧倒的にラクになりうれしいですね



現場が変わっても同じ方法！

全社共通の運用ルールで実施できるため、現場や所属が変わってもスムーズです。運用のばらつきを抑え形骸化を防ぎます。

どこでも同じ方法なのでルールを守りやすくなったと感じます



複数現場の記録管理を一元化！

現場の方アプリでチェックするだけ。各現場の記録が自動で集約され、確認や必要な際の記録提出もスムーズに対応できます。

組織全体できちんと記録が残るので安心できます



検知器含めて全て任せられる！

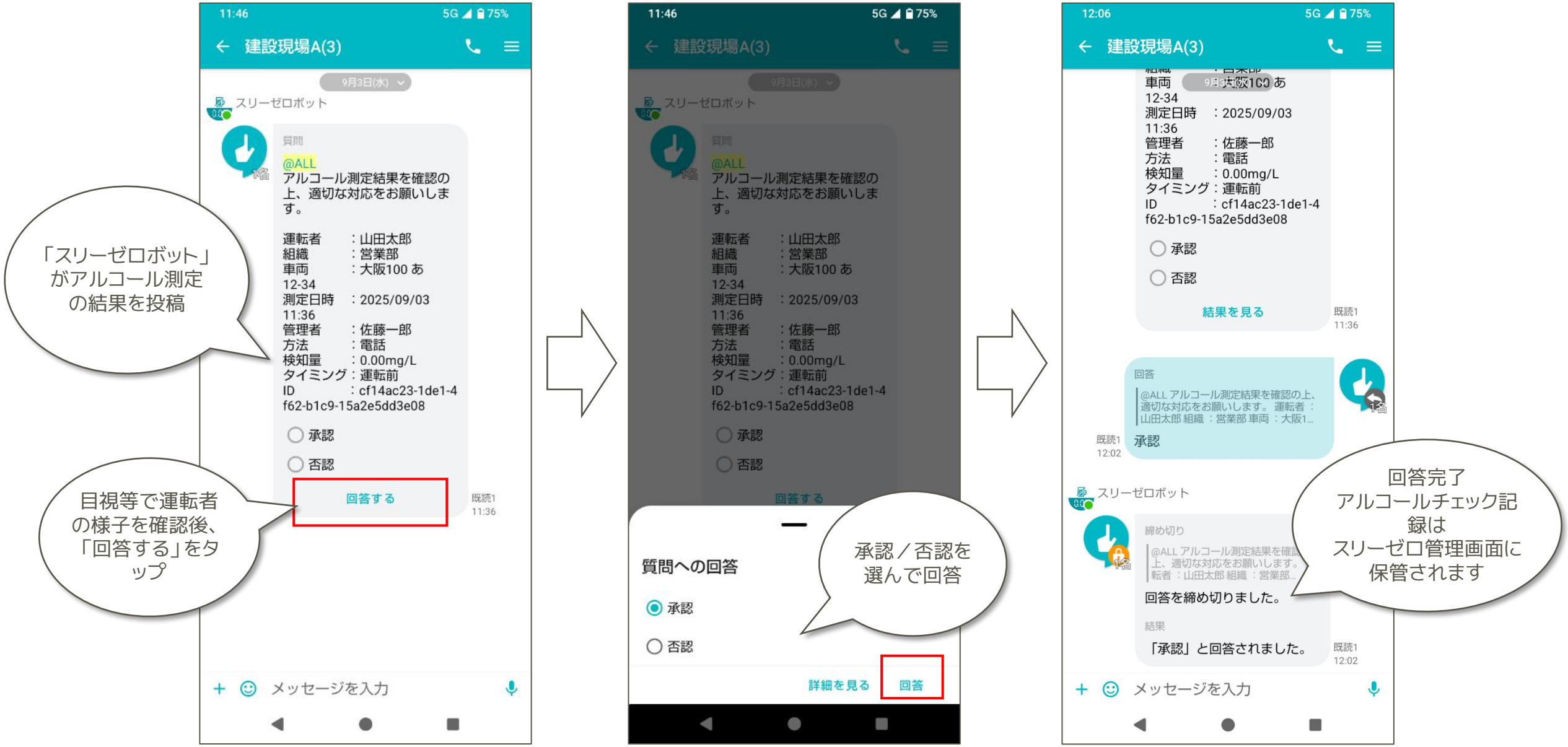
スリーゼロに検知器情報を登録することで、有効期限を管理可能。 LisBから検知器のご提案も可能なためアルコールチェック運用をまとめてご相談いただけます。

現場の実態を理解して提案いただけるので納得できます



Copyright © SHARP CORPORATION

direct × スリーゼロ連携による管理業務のDX

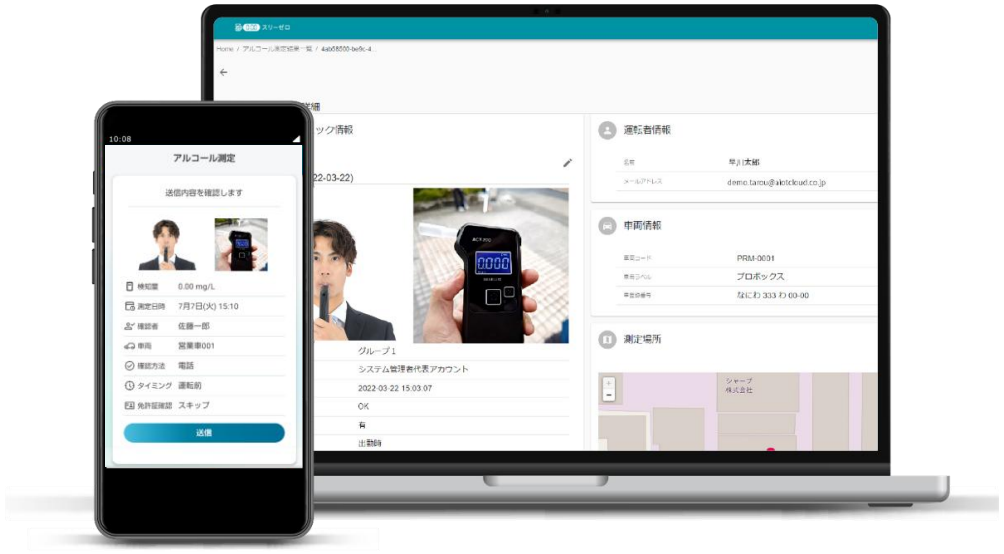


Copyright © SHARP CORPORATION

サービス紹介ブースのご紹介

ひとの願いの、半歩先。
SHARP

アルコールチェックのデモや「2分でできる、義務対応の簡易チェック」を
ご用意しておりますので是非お立ち寄りください！



アルコールチェックデモ
（direct連携）



2分でできる、義務対応の簡易チェック

Copyright © SHARP CORPORATION

２分でできるアルコールチェック義務対応の簡易チェック

ひとの願いの、半歩先。
SHARP

全15項目の質問で貴社のリスクレベルを可視化
改善に向けた取り組み案をレポートとしてご提供

チェック結果

1. 総合判定

C

リスクレベルＣ：隠れリスク大

「できているつもり」の中に、なりすまし・記録不備などの抜け穴が残る状態です。

対応状況の位置（左＝対応済／右＝見直し余地大）　**57 / 100**

A 対応済 | B 一定水準 | C 隠れリスク大 | D 高リスク

スコア **57** は **Cゾーン（隠れリスク大）** に位置します。スコアが高いほど、義務対応に見直しの余地が大きい状態です。

2. 企業に求められる取組と対応状況

企業の取組は大きく4つに整理できます。1〜3は法令上の義務、４安全意識の向上（ドラレコ・研修等）は任意の取組。本チェックは義務にあたる1〜3を対象としています（4は対象外）。土台になるのは1〜3の義務対応です。

義務（罰則・処分の定めあり ※）　任意（罰則なし）

1 安全運転管理者の選任
達成度 80%
事業所ごとに安全運転管理者を選任・届出する義務。異動・退任時の変更届（15日以内）まで運用できているかがポイント。

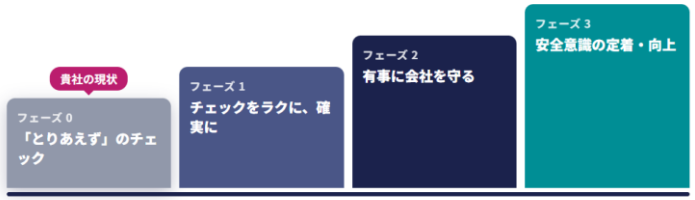
2 違反運転の防止
達成度 50%
運転者の免許有効期限・違反状況を把握し、免停・無免許の従業員を運転業務から外す仕組み。

3 日々のチェック・点呼
＋形骸化しない仕組み
③ 日々のチェック・点呼
達成度 0% 要確認
運転前後のアルコールチェックと点呼、記録と1年間の保存、運転日誌の記録、監査・事故の際にすぐ記録を出せる状態。

4 安全意識の向上
本チェックの対象外
ドラレコ等での安全運転の啓発、安全運転研修・教育、事故・車両維持費の削減の取組など、任意の取組です。本チェックでは診断していません。

3. 貴社の現状（4つのフェーズから判定）

リスクレベル（A〜D）が現状の運用体制のリスクを示すのに対し、フェーズ（0〜3）は体制構築のステップを示します。まずチェックの業務負荷を下げ、そのうえで有事の際に会社を守るための体制づくりや、従業員の安全意識を高める文化醸成へと進めることを推奨しています。



【リスクレベルとの大まかな関連性】
A 対応済
B 一定水準
C 隠れリスク大
D 高リスク

4. フェーズ1「チェックをラクに、確実に」に向けた取組：5つ

いまの回答をもとに、優先度の高い順に整理しました。

1 記録をクラウド化する（散らばりがちな記録を集約し、抜け漏れを防ぐ）

回答内容	Q9（アルコールチェック・点呼の記録方法について）で「**紙・Excel**」と回答
現状のリスク	紙・汎用ツールの運用は、事故・監査の際に「適切に管理していた」ことの証明が難しくなります。
スリーゼロの機能	改ざん・なりすましができない運用をサポート。測定データをクラウドで管理し、長期保存および検索機能を標準で提供しています。

2 運転日誌（運転日報）の記録を運用に載せる（紙でも可）

回答内容	Q10（運転日誌の記録について）で「**記録に抜け漏れがある／記録できていない／分からない**」と回答
現状のリスク	運転日誌の記録は安全運転管理者の業務として定められています。紙・Excel運用や未記録のままでは、記入漏れ・紛失が起きやすく、チェック記録との突合にも手間がかかります。

Copyright © SHARP CORPORATION

ひとの願いの、半歩先。

SHARP